

平成29年度 標準学力調査 結果概要 【中学校】

那覇市立教育研究所

★ 本冊子は、1学期に実施した標準学力調査結果を踏まえ、那覇市の中学校生徒の学力の状況を把握するとともに、課題の分析と考察を行い各学校の授業改善に活かし、本市の学力向上推進に役立てることを目的として作成したものです。

■ 標準学力調査目的

- 那覇市内の中学校生徒の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上および指導の改善に資する。

■ 調査内容

- 調査目的に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用之力を測る問題で構成した。

■ 調査対象

- 那覇市内の公立中学校1・2年生の生徒
- 調査対象教科は、国語・数学

■ 調査結果

【中学校の調査結果】

		自治体全体 平均値 (%)	目標値 (%)	目標値との差	受験者数
中学校 1年生	国語	71.6	68.3	3.3	2893
	数学	66.7	66.3	0.4	2894
中学校 2年生	国語	68.1	67.2	0.9	2758
	数学	51.5	58.0	▲ 6.5	2757

目 次

【国語】

○ <第1学年>

- ★本市の教科【中1国】概要一覧・・・・・・・・・・P1
- ★小問別の結果概要・・・・・・・・・・P2
- ★課題のある小問についての分析・・・・・・・・P3～6
(課題のある小問の中から主な4問)

○ <第2学年>

- ★本市の教科【中2国】概要一覧・・・・・・・・・・P7
- ★小問別の結果概要・・・・・・・・・・P8
- ★課題のある小問についての分析・・・・・・・・P9～12
(課題のある小問の中から主な4問)

【数学】

○ <第1学年>

- ★本市の教科【中1数】概要一覧・・・・・・・・・・P13
- ★小問別の結果概要・・・・・・・・・・P14、15
- ★課題のある小問についての分析・・・・・・・・P16～19
(課題のある小問の中から主な4問)

○ <第2学年>

- ★本市の教科【中2数】概要一覧・・・・・・・・・・P20
- ★小問別の結果概要・・・・・・・・・・P21、22
- ★課題のある小問についての分析・・・・・・・・P23～26
(課題のある小問の中から主な4問)

★「教科概要一覧」は下記の結果を表示しています。

- ・集計結果
- ・カテゴリー別正答率
- ・正答率度数分布
- ・正答率の比較（基礎活用、領域、観点）
- ・標準スコアによるカテゴリー間の比較

★「小問別の結果概要」は、調査結果の問題情報及び Web 上の「Web 評価支援システム（小問別正答率）」を参照に本研究所で考察用に編集しています。

★「課題のある小問についての分析」は、特に本市において課題のある問題を取り上げ、その分析、考察を行い改善策（指導に当たって）を示しています。

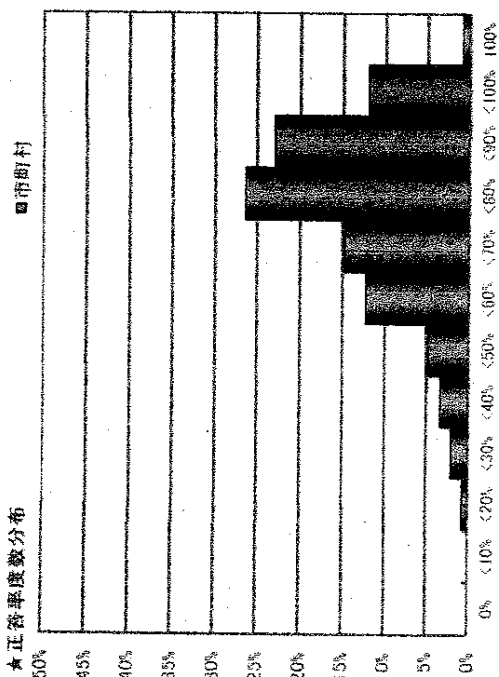
★集計結果

	目標値	平均正答率	偏差値	達成率
市町村	68.3	71.6	75.0	72.6
全国		73.5	76.6	76.1

★カテゴリー別正答率

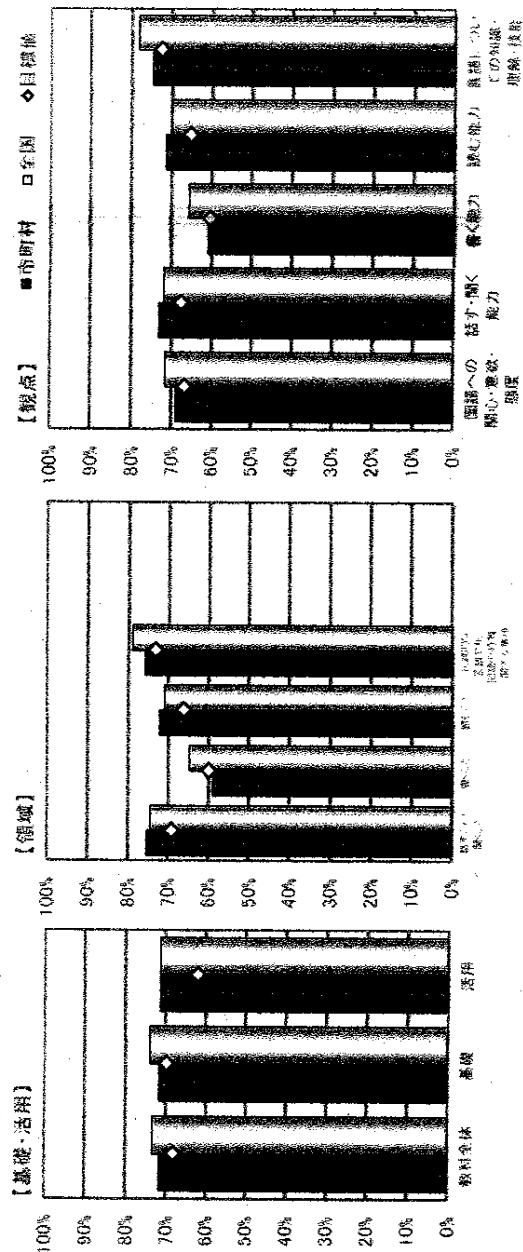
分類	区分	目標値	平均正答率
基礎・活用	教科全体	68.3	71.6
	基礎	70.0	71.7
	活用	62.1	71.3
	話すこと・聞くこと	69.2	75.3
領域	書くこと	60.0	59.0
	読むこと	66.3	72.2
	言語の運用及び知識・技能	73.3	75.8
	国語への関心・態度・態度	66.7	69.0
観点	話す・聞く能力	67.7	73.1
	書く能力	60.4	61.0
	読む能力	65.3	71.5
	言語についての知識・理解・技能	72.6	74.8
解答形式	選択	85.6	70.5
	短答	77.8	78.9
	記述	62.1	64.8

★正答率度数分布

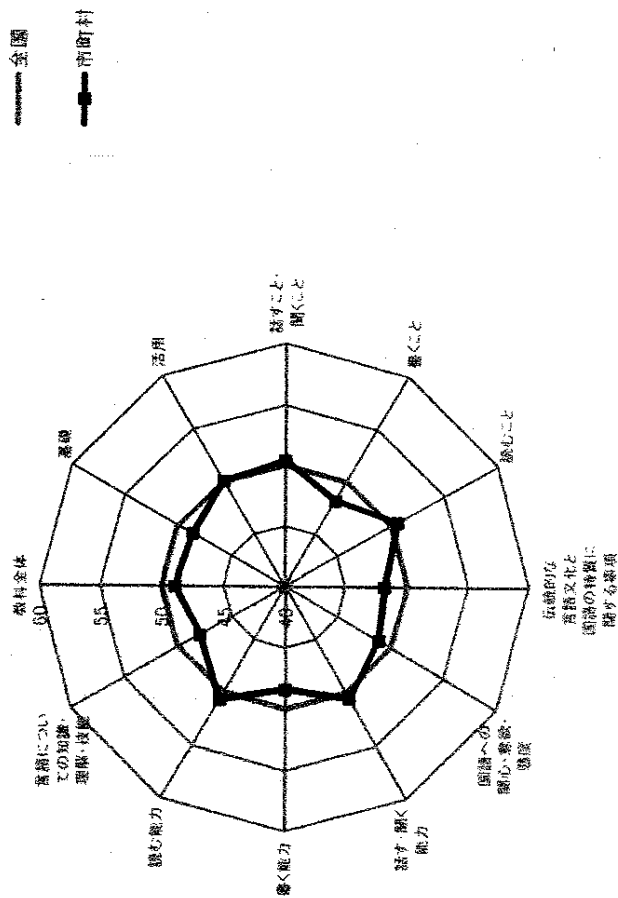


本市の教科概要一覧

★正答率の比較



★標準スコアによるカテゴリー間の比較 (各カテゴリー間の値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



中1国 小問別の結果概要 (問題情報)

那覇市立教育研究所

通し 番号	大問 番号	中問 番号	小問 番号	解答 形式	問題の内容	領域	出題のねらい	学習指導要領	評価	目標値	自治体平均	全国平均	
1	1	(1)		選択	話の内容を聞き取る	話すこと・聞くこと	話の内容を正確に聞き取ることができる。	小5・6年A(1)エ	▼	85.0	79.5	78.7	
2		(2)		選択					△	85.0	94.9	95.6	
3		(3)		選択			聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることができる。		▼	50.0	44.3	42.4	
4		(4)		記述			話の内容を正確に聞き取ったうえで、自分の考えを述べることができる。		△	65.0	77.2	75.6	
5	2	(1)	①	短答	漢字を読む	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	小学校で学習した漢字を読むことができる。	小5・6年伝国(1)ウ(ア)	△	90.0	98.4	98.5	
6			②	短答					△	80.0	90.3	91.9	
7			③	短答					≒	90.0	94.3	93.9	
8			④	短答					≒	90.0	89.0	88.9	
9		(2)	①	短答	漢字を書く		小学校で学習した漢字を書くことができる。		≒	85.0	87.7	91.1	
10			②	短答					▼	60.0	49.8	61.1	
11			③	短答					≒	75.0	70.3	76.2	
12			④	短答					≒	80.0	84.0	81.6	
13	3	(1)		選択	文法・語句に関する知識	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	修飾語について理解している。	小5・6年伝国(1)イ(ホ)	△	40.0	48.3	50.4	
14		(2)		選択			熟語の成り立ちについて理解している。	小5・6年伝国(1)イ(エ)	△	60.0	67.7	72.1	
15		(3)		選択			慣用句について理解している。	小3・4年伝国(1)ア(イ)	≒	80.0	80.7	82.4	
16		(4)		選択			敬語について理解している。	小5・6年伝国(1)イ(ク)	≒	50.0	48.7	60.8	
17	4	(1)		選択	説明文の内容を読み取る	読むこと	文章の展開に即して内容をとらえることができる。	小5・6年C(1)ウ	△	60.0	74.5	73.3	
18		(2)		選択					▼	70.0	62.7	64.6	
19		(3)		選択			文章の表現をとらえながら、内容を整理することができる。		△	60.0	76.5	73.1	
20		(4)		選択					△	70.0	88.7	86.7	
21	5	(1)		選択	文学作品の内容を読み取る	読むこと	登場人物の心情をとらえることができる。	小5・6年C(1)エ	△	85.0	90.5	88.5	
22		(2)		選択					≒	65.0	66.1	64.7	
23		(3)		選択			登場人物の心情の変化をとらえることができる。		△	70.0	81.4	79.1	
24		(4)		選択			文章の表現の特徴をとらえることができる。		▼	50.0	37.1	36.8	
25	6	(1)		選択	話し合いをもとに新聞記事を書く	話すこと・聞くこと	複数の資料の情報をまとめて、意見を述べることができる。	小5・6年A(1)イ	△	70.0	87.1	87.0	
26		(2)		記述			資料から問題点を読み取って、意見を述べることができる。		△	60.0	69.1	67.4	
27		(3)		短答			話し合いをもとにして、新聞記事の内容を決めることができる。	小5・6年B(1)イ	≒	50.0	46.7	41.7	
28	7			記述	作文	書くこと	指定された文字数で書くことができる。	小5・6年B(1)ア	≒	60.0	59.7	68.4	
29				記述			3段落構成で文章を書くことができる。	小5・6年B(1)イ	≒	55.0	51.5	62.7	
30				記述			自分の立場を明確に書くことができる。	小5・6年B(1)ウ	≒	80.0	82.7	88.0	
31				記述			自分のとった立場の理由を書くことができる。		≒	50.0	49.9	55.1	
32				記述			自分の考えを明確に書くことができる。		≒	65.0	63.4	72.3	

※上記の表は標準学力調査の結果(問題情報)データ及びWeb上の「Web評価支援システム(小問別正答率)」を参照に本研究所で編集したものです。

課題のある小問についての分析

中1国

※選択肢から答えを選ぶ際には、日頃から、設問の中で注意する「言葉（具体的な）」に傍線を引く等を習慣付けましょう。

（生徒への問いかけ）
1～4では、それぞれ、どんなことが「話し方の工夫」だと言っているのかな？（赤線の箇所）

【問題詳細】

各反応率

1→44.3%（正答）

2→6.8%（誤答）

3→45.0%（誤答）

4→2.3%（誤答）

- ③ 山本さんが行っていた話し方の工夫として、最も適切なものを、次から一つ選びなさい。
- ① 問いかけや呼びかけの言葉を交えて話し、聞き手が興味をもって聞けるようにしていた。
- 2 自分の体験を「一つめ」「二つめ」という言葉を使って、内容を整理して話していた。
- 3 最初に何について話すかははっきりと示すことで、聞き手が話を理解しやすくしていた。
- 4 自分の思いを話さずに出来事だけを話して、出来事を正確に伝えるようにしていた。

大問1(3)

【話の内容を聞き取る】

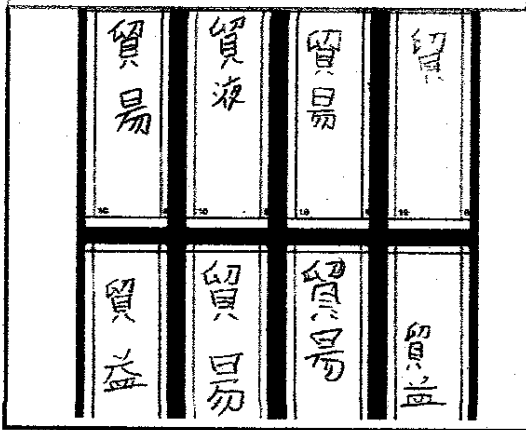
	自治体全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率(%)	44.3	50.0	▲5.7	42.4	1.9
出題のねらい	聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることができる。				
誤答分析と考察	【問題詳細】の各反応率を見ると4を選択したのが45.0%と1の正答を上回っている。このことは誤った理解が定着していると考えられる。 放送の山本さんのスピーチの中で「でも、今日お話しする『大切な贈り物』は、この本欄のことではありません。私と祖父との思い出のことです。」の言葉があることから、4の選択肢の「最初」の言葉の後の、「何について話すかははっきり示している」に反応したものと考えられる。 スピーチの最初は「どんな贈り物が欲しいですか」の「問いかけ」で始まっている。途中にもこうした問いかけや呼びかけの言葉もが使われて効果的に使われている。				
指導に当たって	意見発表の場面では、発表の内容とともに、発表の仕方の工夫についても、注意して聞き取ることができるようにすることが大切である。効果的な発表の仕方については、聞き取り学習だけでなく、発表学習の中でも指導していきたい。 また、生徒自身が問題文や設問で何を問うているかを主体的に考えるようにするために、設問に対し（例えばこの場合は「話し方の工夫」はどんなところか）て、具体的に選択肢のどの言葉で判断すべきかを意識させる。そのために設問の言葉にサイドラインを引かせる等の指導を行うことも大切である。 こうした集中した誤答（3と答えた生徒が多い）のある場合は、実際の放送テキストを配布して、どのように判断（理解）したために誤答になったのかを生徒同士話し合わせる場を設定することも有効と考える。				

課題のある小問についての分析

中1国

2

【誤答例】「貿」のみ正しく書いている場合の答案



- ① 毎朝、ギユウニユウを飲む。
- ② 外国とボウエキを行う。
- ③ 悲しい出来事に心がミダれる。
- ④ 荷物をへらす。

(2) 次の一線部のカタカナを、漢字に直して書きなさい。
(点や囲をきちんと書くこと。)

正答

貿易

解答類型

☐ 正答

一番多かった解答

解答類型 (定義)	類型番号	正誤	反応率	答案確認
正答	1	○	49.8%	確認
「貿」のみ正しく書いている場合	2	×	11.2%	確認
「易」のみ正しく書いている場合	3	×	9.6%	確認
上記以外の解答	9	×	13.8%	確認
無解答	0	×	15.6%	

大問2(2)②

【漢字を書く】

	自治体全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	49.8	60.0	▲ 10.2	61.1	▲ 11.3
出題のねらい	小学校で学習した漢字を書くことができる。				
誤答分析と考察	「貿」「易」小5年の配当漢字であるが、間違えやすい漢字には同音の漢字や似た形の漢字などが多いが、「貿」の見正しく書いている場合の誤答例をみると、「易」と「易」の混同とみられる誤答が多い。また、「貿易」の漢字は他の出題された漢字に比べて、国語の授業や普段の生活の中で書く場面が少なく定着がみられなかったのではないかと考えられる。				
指導に当たって	漢字に習熟させるためには、日頃から生徒が漢字に触れる機会をできるだけ増やす必要がある。特に漢字を書く力を養うためには、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる習慣と使い方を身に付けていくことが重要である。文脈に即して適切に用いることができるよう、授業において意図的に取り上げるなどの工夫をしながら、学習させることが大切である。さらに、国語科のみならず各教科等でも積極的に使用するよう指導することも重要である。 また、漢字の成り立ちの学習で、特に会意文字と形声文字をしっかりと教えることが大切である。漢字のほとんどが形成文字であることや、その「音符」と「意府」を表すこと(「意府」が部首になり、「音符」が読みになる)を理解させる。こうした漢字の仕組みやよきまりを教えることが漢字の指導には重要となる。 (「易」→音読みした場合、ほとんどが「-OU」と読む。「易」→音読みが「-I」、「-EKI/-AKU」となることが多い。)				

課題のある小問についての分析

中1国

5

〔問題詳細〕

各反応率

1→20.4%(誤答)

2→21.6%(誤答)

3→37.1%(正答)

4→17.7%(誤答)

- (4) この文章の表現について説明した文として、適切ではないものを、次から「つ」選りなさい。
- 1 文章の前半では、少しずつ打ち解ける親子の様子を会話を中心に描いている。
 - 2 文章の前半では、一輝が父親に本当に伝えたいことを地の文で描いている。
 - ③ 文章の後半では、父親に対する一輝の気持ちを顔の表情の変化で描いている。
 - 4 文章の後半では、一輝の気持ちに変化していく様子を地の文で描いている。

大問5(4)

〔文学作品の内容を読み取る〕

	自治体全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率(%)	37.1	50.0	▲12.9	36.8	0.3
出題のねらい	文章の表現の特徴をとらえることができる。				
誤答分析と考察	誤答が選択肢のそれぞれに分散していることから、理解があいまいな状態にあると考えられる。 前半と後半の場面分けの理解、「適切でないもの」「適切なもの」の勘違いや、「地の文」の言葉の意味の理解度などについても理解されていないことも考えられる。生徒の実態も把握する必要がある。				
指導に当たって	文章を二つに分けたとき、それぞれの表現にはどのような特徴があるかを捉える問題である。文学作品では、表現の仕方が、作品の評価に大きく関わる。読み手としては、ストーリーだけを追うのではなく、表現についても味わうことで、自分の表現を豊かにすることにつなげることができる。授業の中で特徴的な描写に着目させるだけでなく、作品を支えている表現について検討させるよう工夫したい。また、そうした表現に着目させ、作品に対するクリティカルな読みの力を付けさせたい。今回の場合には設問の中の言葉の理解や言葉の取り違えがなかったのかの把握も必要である。こうしたミスの場合には問題の一部の言葉にのみ反応したり早とちりすることが繰り返されることも多いので、問題にしっかりと向き合わせるために日頃から問題(設問)で気を付ける言葉は何か、わからない言葉はなかったかなどサイドラインを引かせるなどの工夫も必要であろう。 下記の全国学力・学習状況調査〔中学校〕に係る「授業アイデア例」も参考になる。 ＜参照＞「授業アイデア例」平成25年度、平成24年版				

課題のある小問についての分析

中1国

7

図書委員会では、図書室の本を紹介する方法を話し合い、次のAとBの案が出ました。あなたが図書委員ならば、どちらの案がよいと考えますか。下の「**注意する点**」に従って、あなたの考えを書きなさい。

A

私の案は、毎月一回、お昼の校内放送で、おすすめの本を紹介するという案です。本のあらすじや、本の最もおもしろかった点を紹介したらよいと思います。

B

私の案は、図書室におすすめの本のコーナーを作って紹介するという案です。図書室の目立つところに棚を作って、棚に並べる本を毎月かえたらよいと思います。

注意する点

① 三段落構成とすること。

② 第一段落には、AとBのどちらの案に賛成か、「あなたの立場」を書くこと。

③ 第二段落には、その立場をとった「理由」を、自分の体験（見たことや聞いたことなども含む）を具体的にに入れて書くこと。

④ 第三段落には、「まとめ」を書くこと。

⑤ 八行以上、九行以内（二四一字以上、一八〇字以内）で書くこと。

⑥ 題名や氏名は書かず、原稿用紙の使い方や、誤字・脱字に注意して書くこと。

与えられた条件に従って作文する問題には、いつでも「**注意する点（条件）**」はどんなことだろうかを意識させる。そのためにも、傍線を引く等を習慣を付けよう。

大問7

【作文】

	自治体全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
(2) 正答率 (%)	51.5	55.0	▲ 3.5	62.7	▲ 11.2
(4) 正答率 (%)	63.4	65.0	▲ 1.7	72.3	▲ 8.9
出題のねらい	下記の(1)～(4)をねらいとしている。 (1) 指定された文字数で書くことができる。 (2) 3段落構成で文章を書くことができる。 (3) 自分の立場を明確に書くことができる。 (4) 自分の考えを明確に書くことができる。				
誤答分析と考察	上記のうち特に(2)(4)が課題となっている。「3段落構成」のとりえとし、「段落の頭一字下げの3つになる」が身につけていないと考えられる。また、それぞれの条件を踏まえ、設問の「どちらが良いか」にのみで書いたと考えられる。				
指導に当たって	文章を三段落構成で書くことができるかを見る問題である。「はじめ・なか・おわり」という三段落構成は、文章を書くときの基本である。このような文章構成の基本となるものを身に付けさせるには、説明文や意見文を中心に、いろいろな題材を取り上げて、繰り返し書く練習を積ませる必要がある。その際、200字、400字の字数が分かる原稿用紙に書くなど、指定された字数内で書くことにも普段から慣れさせておくことも必要である。ただし、量や方法の制限ばかりにとらわれ、書くことに抵抗感を持たせる指導にならないように留意すること。そのため、題材や生徒の興味関心に応じた題材の工夫や、自由な意見の尊重と互いの考えの良さや気づきを共有することが大切である。				

標準学力調査+
【1学期末能力】

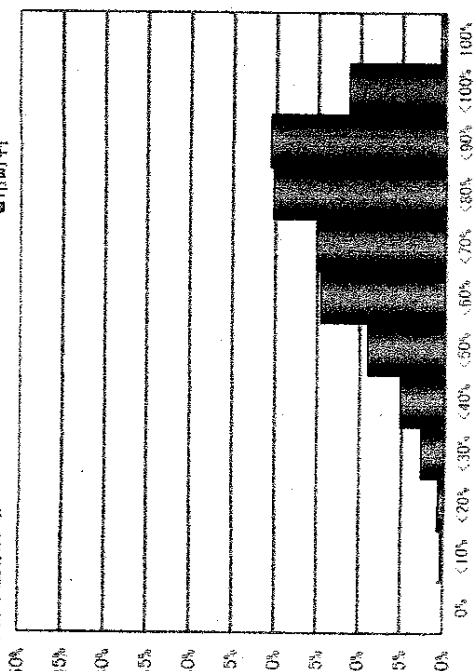
★集計結果

目標値	平均正答率	中央値	達成率
市町村	68.1	71.9	66.3
全国	70.4	73.4	71.6

★カテゴリ別正答率

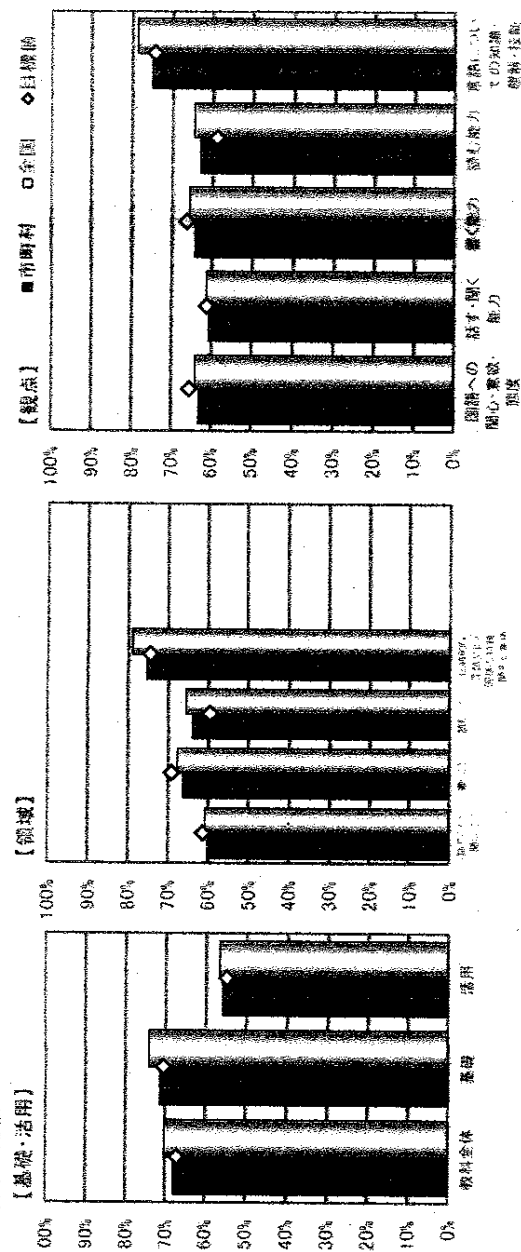
分類	区分	目標値	平均正答率
基礎・活用	教科全体	67.2	68.1
	基礎	70.6	71.5
	活用	55.0	56.8
領域	読むこと・聞くこと	61.3	59.8
	書くこと	66.2	67.7
	読むこと	59.5	63.9
観点	国語への関心・意欲・態度	74.6	75.3
	読む能力	61.1	60.6
	書く能力	66.3	64.4
解答形式	選択	60.7	63.1
	短答	77.6	79.1
	記述	66.4	63.1

★正答率度数分布

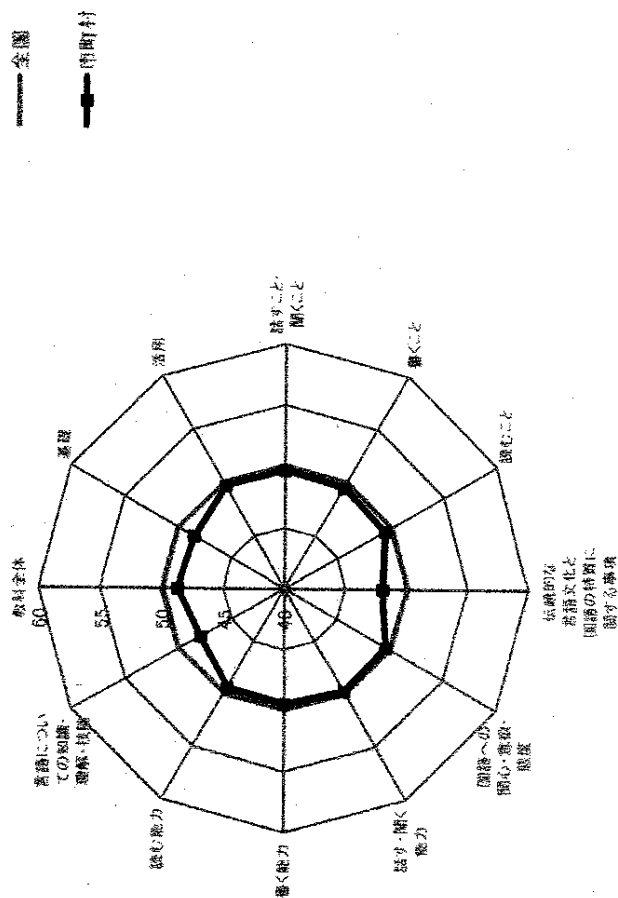


本市の教科概要

★正答率の比較



★標準入スコアによるカテゴリ間の比較(各カテゴリ間の値は、全国平均を50とした場合の標準入スコアを表します)



中2国 小問別の結果概要（問題情報）

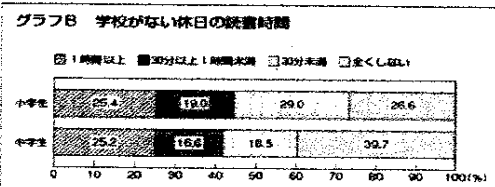
那覇市立教育研究所

通し 番号	大問 番号	中問 番号	小問 番号	解答 形式	問題の内容	領域	出題のねらい	学習指導要領	評価	目標値	自治体平均	全国平均
1	1	(1)		選択	話の内容を聞き取る	話すこと・聞くこと	話の内容を正確に聞き取ることができる。	1年A(1)エ	△	85.0	93.3	94.3
2		(2)		選択				▼	60.0	53.8	53.6	
3		(3)		選択			聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることができる。	1年A(1)オ	≒	50.0	47.5	48.9
4		(4)		記述			話の内容を正確に聞き取ったうえで、自分の考えを述べることができる。	1年A(1)エ	▼	50.0	44.7	46.1
5	2	(1)	①	短答	漢字を読む	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	小学校で学習した漢字を読むことができる。	1年伝国(1)ウ(ア)	△	90.0	98.1	98.0
6			②	短答					▼	80.0	58.6	72.2
7			③	短答					△	90.0	96.0	97.6
8			④	短答					△	90.0	96.4	96.4
9		(2)	①	短答	漢字を書く		小学校で学習した漢字を書くことができる。	1年伝国(1)ウ(イ)	≒	75.0	75.1	81.9
10			②	短答					△	70.0	76.7	77.9
11			③	短答					≒	70.0	66.8	74.8
12			④	短答					△	70.0	75.5	81.9
13	3	(1)		短答	文法・語句に関する知識	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	修飾語について理解している。	1年伝国(1)イ(エ)	≒	60.0	60.8	64.1
14		(2)		選択			熟語の成り立ちについて理解している。		≒	70.0	73.5	77.0
15		(3)		短答			慣用句について理解している。	1年伝国(1)ア(ア)	△	80.0	87.0	84.9
16		(4)		選択			敬語について理解している。	1年伝国(1)イ(ウ)	▼	50.0	39.3	41.3
17	4	(1)		選択	説明文の内容を読み取る	読むこと	文章の展開に即して内容をとらえることができる。	1年C(1)イ	≒	60.0	55.4	58.7
18		(2)		選択					△	60.0	69.9	69.5
19		(3)		選択			文章の表現をとらえながら、内容を整理することができる。	1年C(1)エ	≒	60.0	63.5	64.1
20		(4)		選択				1年C(1)イ	≒	55.0	59.5	61.5
21	5	(1)		選択	文学作品の内容を読み取る	読むこと	登場人物の心情をとらえることができる。	1年C(1)ウ	▼	60.0	52.2	55.4
22		(2)		選択					△	60.0	69.8	72.2
23		(3)		選択			登場人物の心情の変化をとらえることができる。		△	65.0	73.9	73.9
24		(4)		選択			文章の表現の特徴をとらえることができる。		△	60.0	67.9	72.3
25	6	(1)		選択	話し合いをもとに新聞記事を書く	読むこと	複数の資料の情報をまとめて、意見を述べる ことができる。	1年C(1)エ	≒	55.0	59.9	62.2
26		(2)		選択			資料から問題点を読み取って、意見を述べる ことができる。		△	60.0	66.9	65.1
27		(3)		記述		書くこと	話し合いをもとにして、新聞記事の内容を決める ことができる。	1年B(1)オ	≒	50.0	47.8	47.2
28	7			記述	作文	書くこと	指定された文字数で書くことができる。	1年B(1)イ	≒	75.0	74.3	75.8
29				記述			3段落構成で文章を書くことができる。		≒	70.0	68.6	72.4
30				記述			自分の立場を明確に書くことができる。	1年B(1)ウ	≒	80.0	76.1	77.0
31				記述			自分のとった立場の理由を書くことができる。		≒	70.0	68.6	69.4
32				記述			自分の考えを明確に書くことができる。		▼	70.0	61.9	64.5

※上記の表は標準学力調査の結果(問題情報)データ及びWeb上の「Web評価支援システム(小問別正答率)」を参照に本研究所で編集したものです。

中2国

次のグラフ A・B は、小学生と中学生を対象に、学校がある日となじ日の、一日あたりの読書時間を調査した結果です。これを読み、下の（注意する点）に従って、あなたの考えを書きなさい。



〈平成27年度 公募型公募債の募集に際しての募集要項に添する募集要項〉(もとより各社)

(注意する点)

- ① 三段落構成とする。
- ② 第一段落には、「グロリアから読み取ったこと」を書くこと。
- ③ 第二段落には、「グロリアから読み取ったこと」を書くこと。
- ④ 第三段落には、「グロリアから読み取ったことをもとに「あなたが考えたこと」を書くこと。
- ⑤ 八行以上、十行以下（二四一文字以上、二〇〇字以内）で書くこと。
- ⑥ 題名や氏名は、原稿用紙の使い方や、漢字・假字に注意して書くこと。

大問7

【作文】

9

中国

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

梨南が所属する吹奏楽部は、大会の当日に、指揮者の木暮が来られなくなつてしまつた。そこで、会場に来ていた無校生の流多野達が、背、ピアノのダンスとよばれていたことを思い出し、急ぎ足指陣を依頼して、本番前のリハーサルを行っている。

選手が走りがない動作でタクトを振りをあげた。フルートをか
えた果腹は、指の先まで緊張が走るのを感じたけれど、いざ起
始まってみると、選手の指揮はどこと言つて変わったところも
く、なんだが拍子抜けするほどふつうだった。

「こんなものなのか……」
演奏を終えて、樂壇に空位にも似た感傷にこたえ、とまどい、
選手が曲間にしむを寄せ、大きく目の縁をこした。
「そのトランペッター、フォルタとビエラニッセルの意
んの？ もつとリハリつけるん？」
いきなりタクトの先を突きつけられて、橋本くんがぐりと
まがる。

「サックス！ 伸ばしてるとちゅうで息切れしない！ プースの位置、気をつけて！」

「フルート！ 高録盛、もつといてねいに！」

「そっちのフルートは右手小指の押さえがあまりい！」

にらまれたのは栗南だ。たしかに小指の押さえがあまりくなるのが、前から気になっていた。でも、一回、演奏を聴いただけで、

この場所ではハースルをしたのに、客座に人が入ると、まるで
印象がちがう。去年、初めてこの大会に参加したときだって、こ
んなに緊張しなかった。頭にはかっと血が上っているのに、指生
が冷たい。このまま、望むように指が動かなければ、どうしよう

いつもと同じ様な表情の姿子が、虎台に上つて

づる日記に就すよにせながら、おもむきに
 運子の目がまっすく射るやうに紫雲を見た
 ときもはびたりと止まる。
 運子の氣が振りがつたとき、紫雲には
 上りの飛びさう影が見えたやうな氣がした
 運子の肩むすびがからだに透して、心地い
 氣感にうつまつ

れる。選手についてはいけは、人びのはるか高きにもまのはなつめ
るにたがでる。そんな気がした。
みんなの音がひとつになって、空気が振動する。あわわ。自分
分でもしきなく、なめらかに指が動く。いつの間にか、果
然南島身音楽の部になっていた。全身を震らす音楽が、あふれ
てきて、心に共鳴する。

音楽つて、こんなにも深く、美しく、エキサイティングなものなのか――

そうして、蓮子のタクトが生まれた。一面の緑ののち、翳れるような拍手がホールに響きわたった。立ち上がつて拍手する人々までいる。あれはシミナと吉川先生と新藤先生だ。ほかにち、つられてスタンディング・オベーションをする人がちらほら見えた。

そんなことまでわかるなんて。

「ソロ担当のケラリネット！ そんな首とも、リードが割れてるの？」

「長山くんが荷をすくめる。
「じゃ、すぐ歸えて！」」

次から次へと、ほぼ全員に数枚なく指示をせよと、たちまちリバーサルの割り当て時間は終わりになった。次の学位が繰で待機しているのを見て、透子はだれよりも先にさつきとステージを降りる。

それから本場まで、休憩どころではなかつた。みんな、会場の外の駐車場に集まり、注意されたところを直すのに必死だった。通子は寒いからと口を、**唇**はつきあつてくれなかつたけれど、そのほうがよかった。**本場**にいられては、緊張のあま

り、練習にならなかつたら
「こんな森前になって、すま
うぶなのかなあ？」
坂本くんが不安げに言う。
でに駐車を要する場
しする場

「何言ってるの？　こうなるさ。波多野さんになかせるしかないでしょ。送ってるさ。『番手』なんだから！」
 新気な龍木くんは、黒がじと本の主人を人れる。龍の言うとおり波多野送下についていくとかなないのだ。

出番は終度から、節目だった。本番のステージに上がると、果
肉の心臓は苦しいほどにどきどきと脈打ちはじめる。さっき、阿
栗南は言葉を熱くなるのを感じた。この序を作ったのは吹奏楽

「モニー」はみんなに本物の虹を見せてくれたのだ。
(佐々木 幸子) 一日の夜のブレイユードより

ニ「イエス」と曰フ。ア、シモ、
「どうも驚きに堪へてゐるが、
イエスは人を救く爲すことを、
ア、シモは人を罰く爲すことを欲す。」

「ア、シモ」を喚ぶこと。

品 スタンディング・オベーション、観客が立ち上がつて、拍手を
送つた。

(イ) この文段を、時間と場所の移り変わりで大きく二つの場面に分けたとき、二つめの場面はどこからどこまでですか。最も適切なものを、次から、つ選びなさい。

1 AからBまで
2 AからCまで
3 BからCまで
4 BからDまで

【文学作品の内容を読み取る】

【文学作品の内容を読み取る】

	自治体全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	52.2	60.0	▲ 7.8	55.4	▲ 3.2
出題のねらい	場面の展開をとらえることができる。				
誤答分析	正答率が52.5%と低く、誤答も選択肢1, 2, 4に分散している。何を基準として場面分けの判断するか曖昧なままの回答した生徒や、「時間」の移り変わりにかえて判断に迷った生徒も多くなったと考える。				
指導に当たって	小説や物語においては、場面の転換を考えながら読むことも基本的な読み方の一つである。作品によっては、場面によって語り手が変わっていたり、時間的に前後していたりすることもあるので注意を要する。本問では、時間と場所の移り変わりが問題になっているので、比較的分かりやすい。丁寧に読んでいけば、「リハーサル場面」「休憩時の駐車場での手直しから本番の演奏前までの場面」「本番の演奏の場面」の三つの場面に分かれることを捉えられるであろう。 こうした場面分けを考えるときには、場面設定の条件に必要な「時」「人」「場所」の3つのポイントを押さえるようにすることが大切である。 (参照) ・「平成24年度【中学校】授業アイデア例」P5, 6				

課題のある小問についての分析

中2国

3

- 4 村上さん
3 北川さん
2 工藤さん
1 古田さん

解答類型出現(反応)率

選択肢番号	正答	出現率
①	×	32.9%
②	×	21.9%
③	○	39.3%
④	×	5.7%

古田「『他山の石』とは、自分の欠点よりも他人の欠点の
ほうが目につきやすいという意味ですよ。」
工藤「そうでしょうか。持つ人によって、価値があるもの
でも役に立たなくなるといった意味だと思います。」
北川「そうではなく、他人のよくない言動でも、自分をみ
がくために役立つという意味だと思います。」
村上「いや、環境を変えようと、新たな見方ができるので、
旅行をするべきだという意味だと思います。」

(4) 古田さんが読んでいる本の中に、「他山の石」という故事
成語が出てきました。この言葉の意味について、古田さんが
友達と次のように話し合っています。言葉の意味を正しくと
らえているのは誰ですか。あとから一つ選びなさい。

大問3(4)

【文法・語句に関する知識】

	自治体全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	39.3	50.0	▲ 10.7	41.3	▲ 2.0
出題のねらい	故事成語について理解している。				
誤答分析	誤答が選択肢番号1, 2に分散し、しかも正答に接近している。 「他山の石」の意味を理解せずに、それぞれの友達の会話文を読んで判断したものと考えられる。				
指導に当たって	故事成語の意味を正確に理解しているかを、日常的な文例での用法を通して見る問題である。故事成語は、一度正確に理解すれば印象に残りやすいことから、確実に身に付けさせたい。また、必ず由来となる故事があることから、その故事の意味をしっかりと捉えさせ、日常の用例に置き換えられるように指導することが大切である。 また、実際の生活で使用する場面を想像させたり、作文や話し合い活動の場面で活用させ定着を図ることも重要である。 ※故事成語は小学校の第3学年及び第4学年で取扱っており、小学校学習指導要領解説では「推敲」「矛盾」「五十歩百歩」を例えとして示している。またその他ことわざや慣用句は、現行学習指導要領では「住めば都」「犬も歩けば棒に当たる」「急がば回れ」「石の上にも三年」「道草を食う」「油を売る」を新学習指導要領では「塵も積もれば山となる」「善は急げ」「石橋を叩いて渡る」「水に流す」「羽を伸ばす」を例にしているの、こうしたことわざや慣用句、故事成語は特に取り上げて確実に身に付けさせておきたい。 (参照) ・「平成26年度【中学校】授業アイデア例」P8 ・「平成21年度【中学校】授業アイデア例」P2				

課題のある小問についての分析

中2国

2

次の問いに答えなさい。

(1) 次の――線部の漢字の読み方を、ひらがなで書きなさい。

① 大きな声で挨拶をする。

② 丹念に洗う。

③ 料理の味が薄い。

④ 鋭い目で見つめる。

(2) 次の――線部のカタカナを、漢字に直して書きなさい。

(点や画をきちんと書くこと。)

① 友達にヒミツを打ち明ける。

② 冷蔵庫に入れてホソンする。

③ 生活をイトナむ

④ アブない場所には近寄らない。

一次の1から3までの空欄の――線部のカタカナを漢字に直し、横書きで正しいに書きなさい。

1 組織の力を大きくする。
2 雨で運動会が中止になる。
3 店をイトナむ。

平成29年度
全国学力・学習状況調査A問題
⑨-1にも「イトナむ」は出題

大問2(1)②、(2)③

【漢字を読む】

	自治体全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
(1)②正答率(%)	58.6	80.0	▲21.4	72.2	▲13.6
(2)③正答率(%)	66.8	70.0	▲3.2	74.8	▲8.0
出題のねらい	第1学年までに学習した漢字を読むことができる。				
誤答分析	「丹念」の「丹」は中1で習った漢字であるが、生徒にとっては使用頻度の少ない熟語の一つと考えられる。 「営む」は小学校6年で習っている漢字で、「営業」「経営」などの熟語として目にしたり使用頻度も高い漢字と思われるが、訓読み「いとなむ」としての使い方に慣れていなかったり、実際に漢字で使用することが少なくて定着しにくい漢字の一つと考える。				
指導に当たって	漢字の学習については、新出漢字を押さえていくだけでも大変である。特に大切なことは、学習したことを活用できるような場を設定していくことである。漢字の小テストだけでなく、生徒同士が問題を作って出し合ったり、クイズ形式で学習したりするなど、さまざまな学習の工夫が求められる。 指導に当たっては、「丹精込めた～」「～を丹念に調べる」など短文づくりをさせたり、作文の中で使用させたりする経験を積ませることも考えられる。また日頃から漢字辞典などを活用して、単に読み書きだけでなく、その漢字の部首や成り立ち、用例なども併せて学習させたい。そのためには、辞書を引くことを習慣付けることが有効である。また、書写の学習との関連を図り楷書で正しく整った漢字を書くように指導することも大切である。 (参照) 「平成21年度【中学校】報告書」P195授業アイデア例「定着しにくい漢字や間違いやすい漢字について意識をもって読み書きできるようにする」				

標準学力調査
〔学習態度調査〕

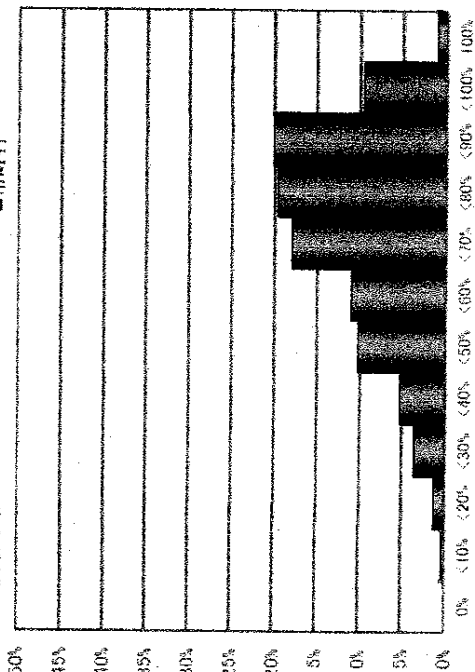
★集計結果

調査項目	平均正答率	中央値	達成率
市町村	66.7	70.0	64.4
全国	68.3	71.4	67.6

★カテゴリ別正答率

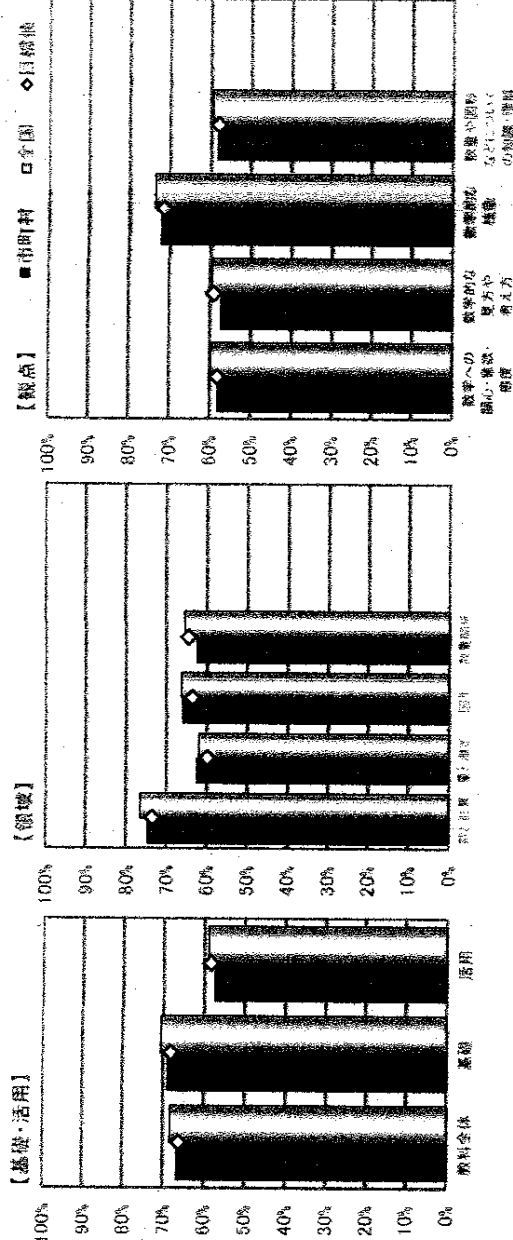
分類	区分	目標値	平均正答率
基礎・活用	教科全体	68.3	66.7
	基礎	68.2	68.9
	活用	58.6	57.6
	数と計算	73.6	74.6
領域	数と数量	60.0	62.4
	図形	63.6	66.1
	数量関係	64.6	62.5
	数への関心・意欲・態度	58.2	58.2
観点	数学的な考え方	59.2	57.4
	数学的な技能	71.6	72.1
	数と図形などについての知識・理解	56.2	58.4
	運気	62.6	61.8
解答形式	短答	73.9	75.7
	記述	45.0	50.1
			47.6

★正答率度数分布

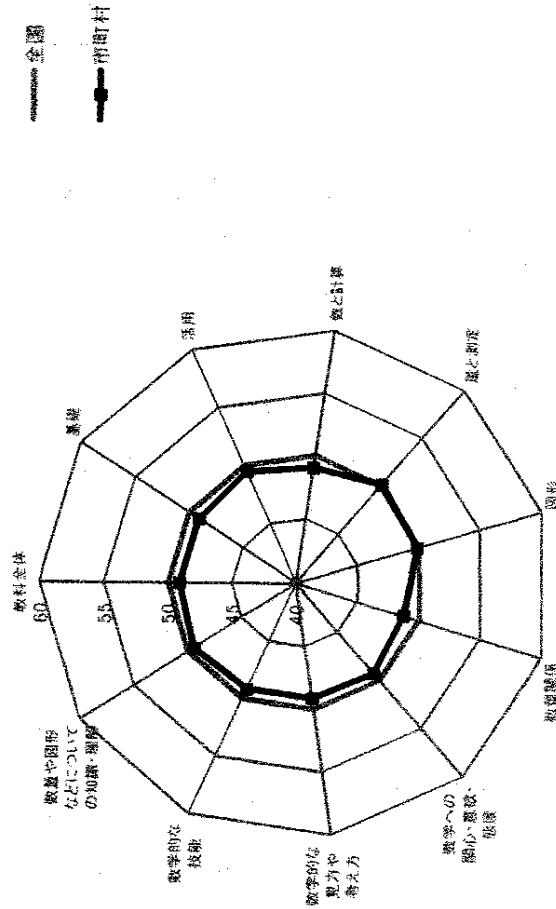


本市の教科概要

★正答率の比較



★標準スコアによるカテゴリ間の比較(各カテゴリ間の標準平均を50とした場合の標準スコアを表します)



中1数 小問別の結果概要 (問題情報)

那覇市立教育研究所

通し 番号	大問 番号	中問 番号	小問 番号	解答 形式	問題の内容	領域	出題のねらい	学習指導要領	評価	目標値	自治体平均	全国平均
1		(1)		短答	小数・分数 の計算	数と計算	小数第一位÷小数第一位の計算ができる。	小学3年A (5)イ	≒	85.0	83.8	84.3
2		(2)		短答			小数第一位÷小数第一位=小数第一位の計算 ができる。	小学5年A (3)イ	≒	85.0	86.8	87.2
3		(3)		短答			異分母分数の加法(約分あり)の計算ができる。	小学5年A (4)オ	△	65.0	79.0	76.9
4		(4)		短答			分数×整数(約分なし)の計算ができる。	小学5年A (4)カ	≒	85.0	89.7	91.6
5		(5)		短答			分数×分数(約分なし)の計算ができる。	小学6年A (1)イ	≒	85.0	88.6	91.9
6		(6)		短答			分数÷分数(約分あり)の計算ができる。		≒	85.0	89.5	92.1
7		(1)		短答	整数の性質	数と計算	2つの整数の最小公倍数を求めることができる。	小学5年A (1)イ	▼	75.0	68.1	72.2
8		(2)		選択			2つの整数の最大公約数に関する文章題を解 くことができる。		≒	70.0	68.7	71.7
9	3			選択	小数・分数 の計算	数と計算	整数÷小数に関する文章題の正しい式を選ぶ ことができる。	小学5年A (3)イ	▼	40.0	34.3	36.1
10	4			選択	小数・分数 の計算	数と計算	分数の除法の文章問題を表した図を読み取る ことができる。	小学6年A (1)ア	≒	60.0	57.6	60.7
11		(1)		選択	平面図形	図形	円周の長さを求める式を選ぶことができる。	小学5年C (1)エ	≒	45.0	42.0	36.5
12		(2)		短答	面積と体積	量と測定	底面積と高さから角柱の体積を求めることが できる。	小学6年B (3)ア	△	80.0	85.6	86
13	6			短答	面積と体積	量と測定	円を組み合わせた図形の面積を求めることが できる。	小学6年B (2)ア	▼	40.0	29.3	33.3
14		(1)		選択	単位量あた りの大きさ・ 平均	量と測定	表から平均を求めることができる。	小学5年B (3)ア	△	80.0	91.0	90.6
15		(2)		選択			時間の単位の違う速さと時間から道のりを求 める式を選ぶことができる。	小学6年B (4)	▼	40.0	34.6	31.8
16	8			記述	単位量あた りの大きさ・ 平均	量と測定	テープの1mあたりの値段から全体の代金を求 めるときの誤りについて説明することができる。	小学5年B (4)ア	△	60.0	71.7	68.5
17		(1)		短答	平面図形	図形	直線が180°であることと、三角形の3つの角 の和が180°であることを利用して、三角形の 外角の大きさを求めることができる。	小学5年C (1)ウ	≒	70.0	68.3	68.4
18		(2)		短答			四角形の4つの角の和が360°であることを利 用して、与えられた3つの角から残りの角の大 きさを求めることができる。		△	75.0	82.2	83.9
19	10			選択	平面図形	図形	合同な三角形をかくために必要な条件を理解 している。	小学5年C (1)イ	≒	70.0	72.9	71.9
20	11			選択	平面図形	図形	縮図を使って実際の直線距離を求めることが できる。	小学6年C (1)ア	≒	75.0	74.4	76.8
21		(1)		短答	平面図形	図形	線対称な図形の対応する点を見つけることが できる。	小学6年C (1)イ	≒	40.0	42.7	47.5
22		(2)		選択			点対称な図形を選ぶことができる。		△	70.0	80.1	79.8
23		(1)		選択	百分率	数量関係	割合の意味について理解している。	小学5年D (3)	▼	45.0	37.1	42.9
24		(2)		選択			百分率について理解し、割り引き後の代金を求 める式を選ぶことができる。		△	60.0	68.5	66.7
25		(1)		選択	場合の数	数量関係	3人が横に1列に並ぶときの並び方が何通りあ るかを求めることができる。	小学6年D (5)	≒	80.0	76.4	77.8
26		(2)		選択			4種類の中から2種類選ぶときの選び方が何通 りあるかを求めることができる。		▼	65.0	58.5	62.9

27	15	(1)	選択	比と比例・反比例	数量関係	2:5と等しい比を選ぶことができる。	小学6年D(1)	≒	70.0	66.7	70.7
28		(2)	選択			比の値について理解している。		△	65.0	72.3	73.3
29	16	(1)	短答	比と比例・反比例	数量関係	比例の関係を、xとyを使って式に表すことができる。	小学6年D(2)ア	≒	85.0	83.1	87.4
30		(2)	選択			反比例についての表を読み取り、表にあてはまる数を求めることができる。	小学6年D(2)ウ	▼	45.0	30.7	42.1
31	17		選択	文字と式	数量関係	文字を使った式が表す場面を選ぶことができる。	小学6年D(3)ア	≒	70.0	67.0	69.5
32	18		短答	文字と式	数量関係	2つの文字を使って表された式について、一方の文字の値から他方の文字の値を求めることができる。	小学6年D(3)ア	≒	80.0	82.6	85
33	19		選択	いろいろなグラフの読み取り	数量関係	2つの柱状グラフを比較して、必要な情報を読み取ることができる。	小学6年D(4)イ	≒	75.0	71.7	77.1
34	20	(1)	選択	いろいろなグラフの読み取り	数量関係	折れ線グラフから読み取ることのできることを選ぶことができる。	小学4年D(4)イ	≒	70.0	69.8	70.1
35		(2)	記述			割合が減っていても、もとにする量が大幅に増えているときは、比べる量は減らないことを、具体的に説明することができる。	小学5年D(3) 小学5年D(4)	≒	30.0	21.6	26.6

※上記の表は標準学力調査の結果(問題情報)データ及びWeb上の「Web評価支援システム(小問別正答率)」を参照に本研究所で編集したものです。

課題のある小問についての分析

2 次の問いに答えなさい。

(1) 12と18の最小公倍数を求めなさい。

大問2(1)

【整数の性質】

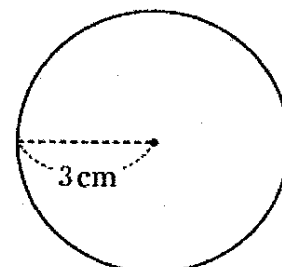
	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	
正答率 (%)	68.1	▲ 6.9	72.2	▲ 4.1	
出題のねらい	2つの整数の最小公倍数を求めることができる。(小学校5年:整数)				
誤答分析	(解答類型) 6:2つの数の最大公約数を求めている。 216:2つの数の積を求めている。 (考察) 最小公倍数と最大公約数の意味や求め方が混同していることが考えられる。 また、最小公倍数は2つの数をかければ求められる、と誤って理解していることが考えられる。				
指導にあたって	最小公倍数の意味や求め方を理解させ、最大公約数との違いの確認をすることも大切である。 また、2つの数の積で最小公倍数を求められる場合とそうでない場合があることを、理解できるようにさせたい。まず最小公倍数を予想させ、次に、それぞれの数の倍数を順番に挙げさせるという基本的な方法を用いて、最小公倍数は必ずしも2つの数をかけた数ではないことを理解できるようにさせることが必要である。 (中学校で関連のある単元等) ○計算過程で通分を使う単元等 中1:文字式の加法・減法(文字の式) 中2:多項式の計算(式の計算) ○最大公約数や最小公倍数 中3:(式の展開と因数分解:素因数分解)				

5 次の問いに答えなさい。

(1) 半径3cmの円の円周の長さを求める式はどれですか。

答えは**1**～**4**から1つ選びなさい。ただし、円周率は3.14とします。

⑩



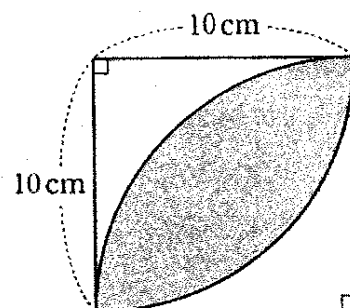
- 1** 3×3.14
- 2** $3 \times 2 \times 3.14$
- 3** $3 \times 3 \times 3.14$
- 4** $6 \times 2 \times 3.14$

大問5(1)

【平面図形】

	自治体平均正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率(%)	42.9	45.0	▲ 3.0	36.5	5.5
出題のねらい					
誤答分析	(解答類型) 3 $3 \times 3 \times 3.14$: 円周の求め方を、(半径) $\times$ (半径) $\times$ (円周率) と考えている。 1 3×3.14 : 円周の求め方を、(半径) $\times$ (円周率) と考えている。 (考 察) 円周の長さは「直径 $\times$ 円周率」で求めることができるが、「半径 $\times$ 半径 $\times$ 円周率」と勘違いしている誤答が多く見られた。				
指導にあたって	円周の長さの求め方と円の面積の求め方の確認をすることも大切である。 また、円周の長さの求め方については、形式的に公式を覚えさせるのではなく、いろいろな大きさの円の円周を測定する活動から、円周が直径のおよそ3倍であることを理解させることが必要である。 (中学校で関連のある単元等) 中1 平面図形: 円とおうぎ形 空間図形: 立体の体積と表面積				

- 6** 右の図の色をぬった部分の面積を求めなさい。ただし、円周率は3.14とします。

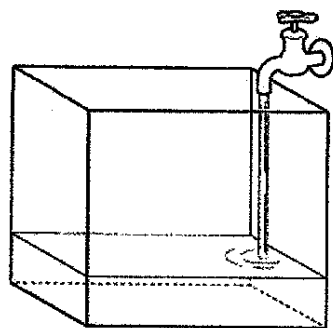


大問6

【面積と体積】

	自治体全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率(%)	29.6	40.0	▲ 10.7	33.3	▲ 4.0
出題のねらい	円を組み合わせた図形の面積を求めることができる。(小学校6年:円の面積)				
誤答分析	(考 察) 公式を利用して求められる図形ではないので、面積をどのように求めたらよいのか 思い浮かべないことなどが考えられる。				
指導にあたって	本問の図形を、四角形や三角形、中心角が90°のおうぎ形など、面積がすぐに分かる形に分けて考えるよう指導する。やや複雑な図形の面積でも、いくつかの部分の形に分け、それらの形の組み合わせ方を考えることにより、複数の方法でその面積を求めることができることを理解させたい。 (中学校で関連のある単元等) 中1 平面図形・空間図形:章末問題				

- 16** 右の図のように、直方体の形の水そうに水を入れていきます。このとき、次の問いに答えなさい。



- (2) この水そうには36Lまで水が入ります。この水そうをいっぱいにするのにかかる時間は、1分間に入れる水の量に反比例します。次の表は、1分間に入れる水の量 x Lとそのときにかかる時間 y 分の関係を表したものです。□にあてはまる数を求めなさい。答えは1～5から1つ選びなさい。

1分間に入れる水の量 x (L)	2	3	4
かかる時間 y (分)	18	12	□

1 6

2 8

3 9

4 16

5 24

大問16(2)

【比と比例・反比例】

	自己採点	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	30.7	45.0	▲ 14.3	42.1	▲ 11.4
出題のねらい	反比例についての表を読み取り、表にあてはまる数を求めることができる。(小学校6年:比例と反比例)				
誤答分析	(解答類型) 1 6: x が1増加したら y は6減少すると考え、 $12-6$ で求めた。 2 8: x と y をかけて36になることは理解しているが、かけ算を間違ったと考えられる。 (考 察) 反比例の意味が分かっていない。表の読み取りができていない。				
指導にあたって	反比例についての表を読み取り、36Lまで水が入る水槽について、1分間に入れる水の量が4Lのとき、水槽をいっぱいにするのにかかる時間を求める問題である。まず、水の量が3/2倍になれば、かかる時間は2/3倍になることを確認する必要がある。その上で、表の水の量とかかる時間の関係から、かかる時間 $=18 \times 1/2$ で求めることを理解させたい。また、1分間に入れる水の量とかかる時間をかけると水そうの水の量(36L)になることの確認をさせたい。反比例の関係は、比例と対比しながら指導すると、その特徴がより鮮明になる。 (中学校で関連のある単元等) 中1 変化と対応: 比例・反比例				

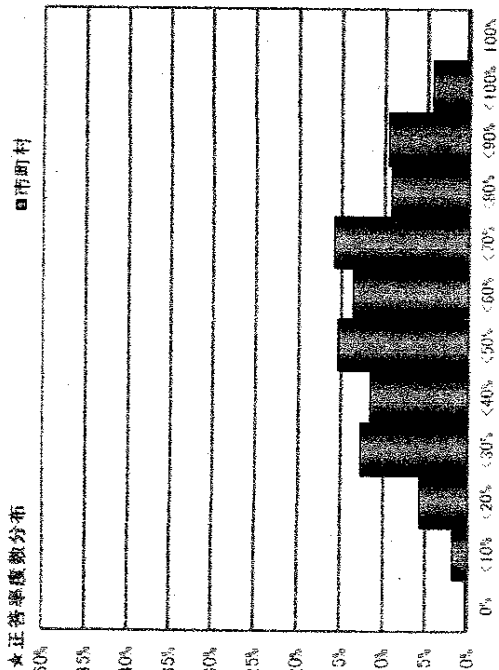
★集計結果

	目標値	平均正答率	中央値	達成率
市町村	58.0	51.5	51.4	48.0
全国	58.4	60.0	60.0	59.8

★カテゴリ別正答率

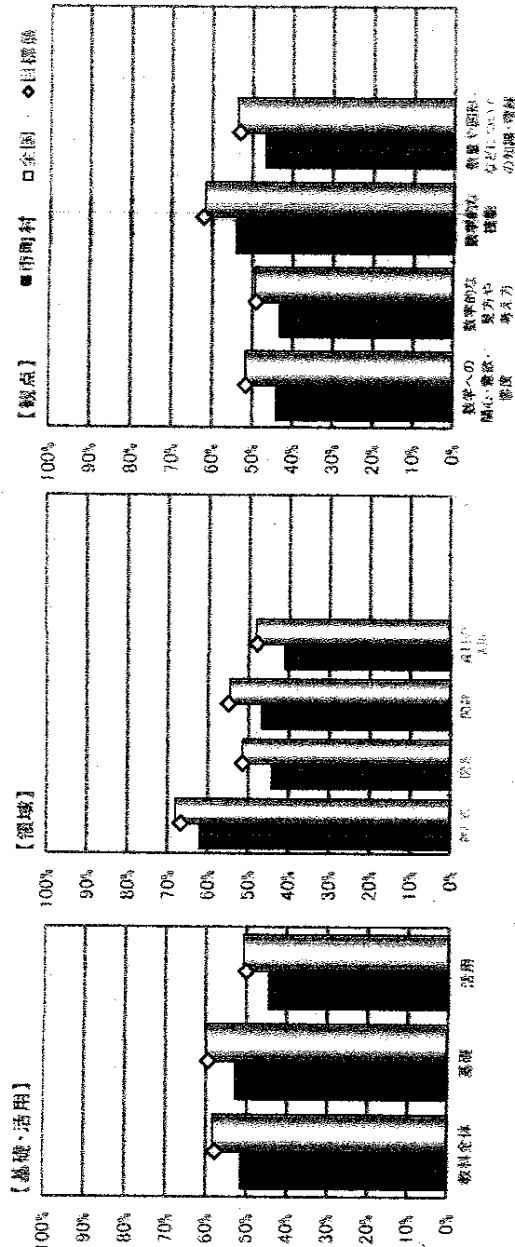
分類	区分	目標値	平均正答率
基礎・活用	教科全体	58.0	51.5
	基礎	59.7	53.0
	活用	50.0	44.5
	数と式	66.8	62.0
領域	図形	51.4	44.1
	関数	55.0	46.7
	資料の活用	48.0	41.1
	数学への関心・意欲・態度	51.7	44.0
観点	数学的な考え方	49.2	43.2
	数学的な技能	62.1	54.1
	数量や図形などについて の知識・理解	53.1	46.7
	選択	56.5	50.7
解答形式	短答	62.5	55.3
	記述	35.0	28.0
			35.4

★正答率度数分布

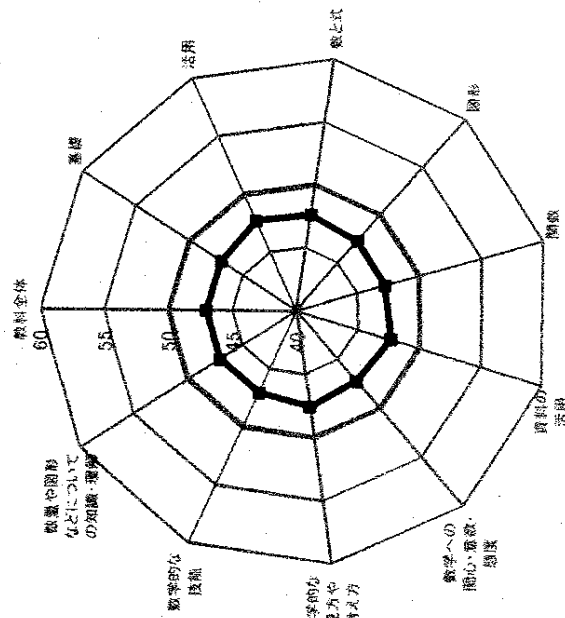


本市の教科概要

★正答率の比較



★標準スコアによるカテゴリ別の比較 (各カテゴリ別の標準平均を50とした場合の標準スコアを表します)



中2数 小問別の結果概要 (問題情報)

那覇市立教育研究所

通し 番号	大問 番号	中問 番号	小問 番号	解答 形式	問題の内容	領域	出題のねらい	学習指導要領	評価	目標値	自治体平均	全国平均
1		(1)		短答	計算の復習 正の数・負の数 文字式	数と式	分数の除法ができる。	小学6年A (1)イ	≒	85.0	84.0	85.0
2		(2)		短答			分数の四則混合の計算ができる。	小学6年A (1)イ、ウ	▼	70.0	59.7	69.0
3		(3)		短答			負の数の減法ができる。	中学1年A (1)ウ	≒	80.0	82.0	88.0
4		(4)		短答			負の数の除法ができる。		▼	80.0	69.5	70.2
5		(5)		短答			同類項をまとめることができる。	中学1年A (2)ウ	≒	70.0	74.6	78.1
6		(6)		短答			1次式の減法ができる。		△	55.0	60.6	58.5
7		(1)		短答	1次方程式	数と式	移項を必要としない1次方程式を解くことができる。	中学1年A (3)ウ	▼	85.0	78.7	84.3
8		(2)		短答			1次方程式を解くことができる。		≒	70.0	66.8	80.3
9				短答	1次方程式	数と式	比例式を解くことができる。	中学1年A (3)ウ	▼	55.0	45.4	54.6
10		(1)		選択	正の数・負の数 文字式	数と式	正負の数の大小関係を不等号を使って表すことができる。	中学1年A (1)ア	≒	70.0	66.1	74.7
11		(2)		選択			絶対値について理解している。		▼	85.0	79.6	85.5
12		(3)		選択			数量の間の関係を不等式に表すことができる。	中学1年A (2)エ	▼	40.0	33.4	38.2
13				短答	1次方程式	数と式	与えられた文章題に対して、適切な1元1次方程式を立式することができる。	中学1年A (3)ウ	▼	60.0	44.7	57.2
14				短答	1次方程式	数と式	与えられた文章題を、1元1次方程式を解いて解決し、兄が弟に追いつく時間を求めることができる。	中学1年A (3)ウ	▼	30.0	23.6	27.7
15				選択	比例・反比例	関数	具体的な事象の中には比例を用いて捉えられるものがあることを理解している。	中学1年C (1)イ	≒	45.0	41.1	44.7
16				選択	比例・反比例	関数	比例の関係での、x、yの値の変化の関係について理解している。	中学1年C (1)イ	≒	60.0	55.0	59.9
17		(1)		選択	比例・反比例	関数	比例の関係にある1組のx、yの値から、比例の式を求めることができる。	中学1年C (1)エ	▼	40.0	33.1	38.9
18		(2)		選択			反比例の関係を表す表から、反比例の式を表すことができる。		▼	60.0	43.5	53.9
19		(1)		選択	比例・反比例	関数	反比例のグラフの一部から、反比例の式を選ぶことができる。	中学1年C (1)エ	▼	55.0	43.9	56.1
20		(2)		短答			比例の式から、比例のグラフをかくことができる。		▼	50.0	29.8	42.5
21				選択	比例・反比例	関数	具体的な事象とグラフを関連付けて読み取り、もっとも重いねじについて表したグラフを選ぶことができる。	中学1年C (1)オ	≒	80.0	77.5	80.3
22				選択	平面図形	図形	三角形を回転移動させたときに、その三角形と重なる三角形がわかる。	中学1年B (1)イ	≒	65.0	61.2	63.6
23				短答	平面図形	図形	角の二等分線を作図することができる。	中学1年B (1)ア	▼	65.0	48.7	63.9
24		(1)		選択	空間図形	図形	角柱の直線や平面の位置関係について理解している。	中学1年B (2)ア	≒	50.0	54.0	55.6
25		(2)		短答			角錐の投影図をすべて選ぶことができる。	中学1年B (2)イ	≒	50.0	47.5	52.5

26		(1)		短答	空間図形	図形	円錐の見取図から、その側面になるおうぎ形の中心角を求めることができる。	中学1年B (2)ウ	▼	40.0	21.5	34.5
27	15	(2)		選択			球の表面積を求める式を選ぶことができる。		▼	50.0	39.5	50.6
28		(3)		選択			同じ底面で高さも等しい柱体と錐体の体積の関係について、正しく理解している。		≒	40.0	36.2	40.0
29		(1)		選択	資料の散らばりと代表値	資料の活用	度数分布表から、階級の相対度数を求めることができる。	中学1年D (1)ア	▼	55.0	44.4	55.2
30	16	(2)		選択			最頻値について理解している。		≒	60.0	61.4	63.2
31		(3)		選択			ある数の真の値の範囲を不等号を使って表すことができる。	中学1年D (1)	▼	40.0	30.9	41.7
32		(1)		選択	比例・反比例	関数	反比例の表を読み取り、xの値に対応するyの値として誤っている箇所を指摘することができる。	中学1年C (1)エ	≒	65.0	61.6	68.5
33	17	(2)		記述			ある2点を通る関数のグラフについての問題について、答えが1つになるように、条件を修正することができる。		≒	40.0	35.0	47.1
34		(1)		短答	資料の散らばりと代表値	資料の活用	ヒストグラムから、階級の幅を読み取ることができる。	中学1年D (1)ア	▼	55.0	48.0	57.5
35	18	(2)		記述			ヒストグラムの特徴を読み取り、説明すべきことがらについて数学的に説明することができる。	中学1年D (1)イ	▼	30.0	20.9	23.7

※上記の表は標準学力調査の結果(問題情報)データ及びWeb上の「Web評価支援システム(小問別正答率)」を参照に本研究所で編集したものです。

課題のある小問についての分析

- 5** シールを何人かの生徒に配るのに、1人に10枚ずつ配ると5枚余ります。また、1人に12枚ずつ配ると7枚たりません。

生徒の人数を求めるために、生徒の人数を x 人として、方程式をつくりなさい。ただし、つくった方程式を解く必要はありません。

⑨

大問5

【1次方程式】

	自己採点率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率(%)	44.7	60.0	▲ 15.3	57.2	▲ 12.5
出題のねらい	与えられた文章題に対して、適切な1元1次方程式を立式することができる。 (中学校1年:方程式)				
誤答分析	(考 察) 数量の間の関係を理解できていないこと、数量の間の関係を方程式に表すことができないことなどが考えられる。				
指導にあたって	分かりやすく指導するために、どの問題でも余ったら足し、足りなかったらひくという指導が行われることがあるが、足すか引くかは、問題文の意味を読み取って判断するよう指導する必要がある。立式の際、何をxと置き、何についての方程式を立てるのか、単位はそろっているか、また一つ一つの数や文字、文字式が何を意味するのかを考えさせると、立式に対する理解がより深まる。 (中学校で関連のある単元等) 中学校1年:文字を用いた式 中学校2年:文字を用いた式の四則計算・連立二元一次方程式 中学校3年:式の展開と因数分解・二次方程式 (全国学力・学習状況調査の類題) H20:A問題3(2) H21:A問題3(3) H23:A問題3(2) H29:A問題3(2)				

10

次の問いに答えなさい。

(2) 比例 $y = -\frac{1}{6}x$ のグラフを、定規を使ってかきなさい。

大問10(2)

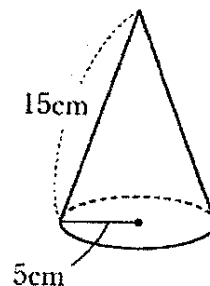
【比例・反比例】

	自治体全国正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率(%)	29.3	50.0	▲ 20.2	42.5	▲ 12.7
出題のねらい	比例の式から、比例のグラフをかくことができる。(中学校1年:変化と対応)				
誤答分析	(考 察) 誤答の原因としては、比例定数が分数なので、どのように処理したらよいか分からないこと、反比例のグラフと混同していることなどが考えられる。				
指導にあたって	はじめに、$y=x$や$y=2x$などの表を作成させる。その表のx、yの値の組を座標とする点を図にかき入れさせ、それらの点を結ぶ線が原点を通る直線(比例のグラフ)になることを確認させる。 次に、$y=1/6x$と$y=-1/6x$についても同様の手順で指導し、$y=-1/6x$は原点を通る右下がりの直線になることを確認させる。式と表とグラフを一体のものとして捉える力を培うことが大切である。 また、比例と反比例のグラフの特徴・違い等を確認をすることも必要である。 (既習事項) 小学校4年: 伴って変わる2つの数量の関係 小学校5年: 簡単な比例の関係 小学校6年: 比例と反比例 (中学校で関連のある単元等) 中学校2年: 一次関数 (全国学力・学習状況調査の類題) H23:A問題10(1)※選択問題 表からグラフ選択 H25:A問題10(3) グラフから式 H19:A問題9(2)				

15

次の問いに答えなさい。

- (1) 右の図のような円錐の展開図をかくとき、側面になるおうぎ形の中心角は何度にすればよいか求めなさい。 ㉔



大問15(1)

【空間図形】

	自治体全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	21.5	40.0	▲ 18.5	34.5	▲ 13.0
出題のねらい	円錐の見取図から、その側面になるおうぎ形の中心角を求めることができる。 (中学校1年:平面図形)				
誤答分析	(考 察) おうぎ形の弧の長さは中心角の大きさに比例していることや、弧の長さを求める式を忘れている ことなどが考えられる。				
指導にあたって	半径をr、中心角a° のおうぎ形の弧の長さをlとすると、$l=2\pi r \times a/360$と表せること、円錐の側面になるおうぎ形の弧の長さは底面の円周に等しいことを確認し、$2\pi r \times a/360=2\pi \times$ (底面の半径)を導いて、中心角を求める方法について復習させる。 また別解として、おうぎ形の中心角を比例式にして求める方法 $l:2\pi r=a:360$ などについても触れるとより理解が深まる。 (既習事項) 小学校5年:円と正多角形 小学校6年:円の面積 (中学校で関連のある単元等) 中学校1年:空間図形				

16

次の問いに答えなさい。

- (1) 右の表は、^{けんと}賢人さんのクラスの通学時間を調べて、度数分布表に整理したものです。

40分以上50分未満の階級の相対度数を求めなさい。答えは**1～5**から1つ選びなさい。 ㊟

1 0.20

2 0.05

3 5

4 8

5 45

通学時間

通学時間(分)		度数(人)
以上	未満	
0	～ 10	2
10	～ 20	8
20	～ 30	10
30	～ 40	12
40	～ 50	8
合計		40

大問16(1)

【資料の散らばりと代表値】

	自治体全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	44.4	55.0	▲ 10.6	55.2	▲ 10.8
出題のねらい	度数分布表から、階級の相対度数を求めることができる。(中学校1年:資料の活用)				
誤答分析	(解答類型) 3 5:相対度数を(度数の合計)÷(その階級の度数) 4 8:相対度数と度数の意味をきちんと理解できていない。 (考 察) 相対度数の意味や求め方をきちんと理解できていないと考えられる。				
指導にあたって	(相対度数) = (その階級の度数) / (度数の合計) で表されることを確認させることが大切である。 また、資料を活用するためには、ヒストグラムや相対度数を求めるなど、目的に応じた資料の整理の仕方を習得することが前提となる。効果的な資料の整理の仕方についても、丁寧に指導する必要がある。 (既習事項) 小学校6年:資料の調べ方 (全国学力・学習状況調査の類題) H26:A問題13(1) H29:A問題14(2) グラフ求める問題 H25:A問題14(2)				